

(報告事項)

平成24年11月6日

新仙台放送会館の整備方針・整備概要について

新仙台放送会館の整備については、用地取得の経営決定（平成23年8月、24年1月）を受け、仙台市青葉区本町2丁目の用地を取得し、災害に強い放送維持の機能強化を目指すとともに、宮城県の放送局、そして東北地域の拠点局として必要な機能・規模を確保し、地域に信頼される放送局サービスを展開するため、検討を重ねてきた。

このたび、整備方針及び整備概要がまとまったため、会館建設に向けて着手することとしたい。

整備方針および整備概要

1 基本コンセプト

(1) 「災害に強く、放送持続可能な機能を持つ会館」

大規模な地震でも放送が継続できる建物構造とインフラ機能を整備した放送局をめざす。

(2) 「安心・安全情報を提供し、地域に信頼される会館」

大震災からの復興への取り組みを継続して発信し、地震・津波などの防災・減災の報道拠点としての役割を果たす放送局をめざす。

(3) 「東日本大震災を風化させない機能を持つ会館」

復興に向けた県民の信頼に応える放送サービス機能と大震災の記憶を風化させない映像アーカイブスが利用できる放送局をめざす。

(4) 「宮城県や東北の豊かな地域文化を発信する会館」

宮城県内のきめ細かな生活・情報を提供し、宮城県の放送局としての機能と東北域内局の拠点局機能を持つ放送局をめざす。

(5) 「杜の都にふさわしい文化の香りと親しみのある開かれた会館」

隣接する公園と一体となった敷地を生かし、会館でのイベントや公開番組などを通じて、ふれあいを深める開かれた身近な放送局をめざす。

(6) 「時代に即した機能を持ち、地球環境にやさしい会館」

インターネット環境や建物のセキュリティーなど最新のビル管理・運営設備を有するとともに、地球環境に配慮した空調設備や放送設備などを導入した放送局をめざす。

2 放送会館機能の強化等

(1) 建物は免震構造を採用

(2) 浸水被害を回避するため電源設備の上階設置

(3) インフラ設備の強化と複数のバックアップシステムの採用

①自家発燃料タンク増量整備（48時間分→100時間分）と自家発電装置の2台化

②2系統受電化および空調エネルギーの多様化（電気・ガス・灯油）

(4) 蓄熱空調方式の採用

(5) 非構造部材耐震対策

(6) 災害時の放送所バックアップとしての非常用放送機室を整備

3 新会館の概要

区分	新会館	現会館
(1)所在地	仙台市青葉区本町2丁目20番地	青葉区錦町1-11-1
(2)敷地面積	6,556.46㎡	6,279.42㎡
(3)延床面積	20,474㎡程度（付置義務駐車場を除く）	11,305㎡
(4)階数	地上7階、地下1階程度	地上4階、地下1階
(5)建設年度	平成29年度	昭和35年度
(6)建設費	建物9.1億円程度※、放送設備4.0億円程度	—
(7)用地取得費	4.0億円（H23.9.1 H24.2.8取得）	売却予定
(8)建設方式	単独建設	単独建設

※設計料、既存解体、杭工事費などは含まず

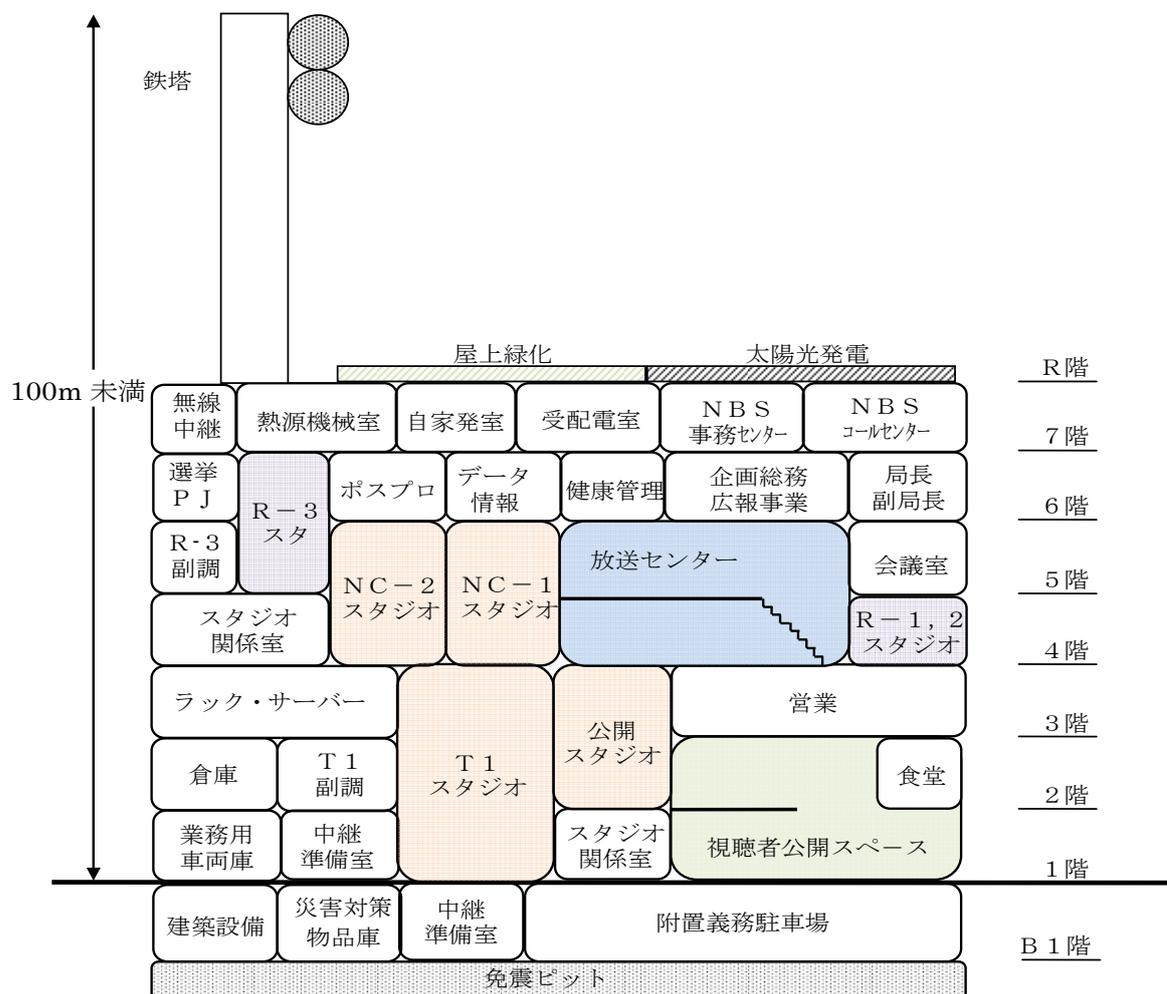
4 主な機能と面積

区分	主な機能	新会館面積	現会館面積
放送機能室	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビスタジオ ・NCスタジオ ・ラジオスタジオ ・放送センター ・ポスプロ等 	6,652㎡	4,630㎡
視聴者公開スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・公開番組、イベントスペース ・ギャラリー ・アーカイブスコーナー 	1,115㎡	386㎡
一般室	<ul style="list-style-type: none"> ・局長・副局長室 ・各部事務室 ・会議室 ・業務用車庫 ・倉庫 	4,865㎡	3,328㎡
建築設備室	<ul style="list-style-type: none"> ・電気関係室 ・空調機械室 	3,160㎡	1,232㎡
共用スペース	廊下、階段、トイレ	4,682㎡	1,729㎡
合計		20,474㎡	11,305㎡

5 会館の主要機能

- (1) 放送センター機能
 - ① 4～5階に放送センター機能を配置し、緊急報道に自在に対応できるニュースセンターを目指す。
 - ② ニューススタジオは4階ニュースセンターに隣接してNC-1、NC-2の2つを配置し、2波出しが可能な環境を確保する。
- (2) スタジオ機能
 - ① 1階にT-1スタジオ、2階に公開スタジオを配置し、開かれた会館として地域視聴者への多様なサービスに対応する。
 - ② 4階にR-1、R-2スタジオを配置し、緊急時の地域放送や全中の2波出し放送に対応する。また、5階に番組が制作できるR-3スタジオを整備し、災害時には生活情報の対応準備スペースとしても活用する。
- (3) 視聴者対応機能
 - ① 視聴者公開スペースは、1・2階吹き抜けとし、公開番組やイベント中継の実施など多様な視聴者サービスを展開する。
 - ② 1階フロアには多目的スペースを配置し、番組収録やイベントに対応できる200席程度が収容可能なイベントスペースとして活用する。また、2階視聴者ゾーンには東日本大震災を中心とした大震災コーナーを設置する。
- (4) メインの設備室は最上階の7階に設置し、浸水に対応するとともに、非常時のBCPに対応したシステムとする。また、太陽光発電など自然エネルギーの活用や電力消費の少ないシステムを導入するなどし、エコ会館を目指す。

《階層別イメージ図》



(断面ではなく階層別のイメージです)

6 スケジュール (予定)

平成24年度	下期	整備方針 整備概要 (スタジオなど放送機能とレイアウト)	
平成25年度	上期	プロポーザルなどによる設計者選定	
	下期	基本設計：各室レイアウトやデザイン、構造計算等	
平成26年度	下期	実施設計：基本設計図に基づき詳細な仕様を図面化 入札 建物 (着工)	
平成27年度	上期	建物工事	<ul style="list-style-type: none"> 土工事 建物躯体、内装工事 電気設備・空調給排水設備工事 自家発・受配電設備工事 鉄塔工事、外構工事
	下期		
平成28年度	上期		
	下期		
平成29年度	上期	建物 (完成)	
	下期	放送設備 (完成)・習熟訓練、運用開始	

○ 新会館移転用地位置図

